

協働で作る授業の実践(2)

—学生の感想から見えてくる学習者中心の意義—

牧 かずみ

医学部・国際交流室

内線 5130 maki@sch.md.shinshu-u.ac.jp

要 旨

本稿は筆者が2003年度後期に担当した共通教育 J 英語 R の実践報告で、前期の J 英語 L の報告に続くものである。学びの過程を重視しつつ、前期よりさらに学生の自由裁量を増やした協働作業の中から、「英語を英語のまま、頭から読み取れるようになること」と「読むことを楽しめるようになること」を目指した。その結果、教師の取り組みに対する評価を求めたコメントの中には学生自身の取り組みへの記述が現れた。このことは学習者が助け合いながら協働作業にかかわることで、授業への参加度は高まり、無意識のうちに自主性を高めていった結果ではないかと思われ、その点を中心に考察、報告するものである。

キーワード

協働作業 過程重視 学習者参加意識 発展課題 自主性

I. はじめに

本稿は筆者が2003年度後期に担当した共通教育 J 英語 R (Reading) の実践報告で、前期の J 英語 L (Listening) の実践報告(牧、'04)に続くものである。

受信的活動と思われていたリスニングやリーディングもアクティブな活動であるという研究が進んできた(小池、'94)中で、日本人の学生達はすでに持っているはずの「文法知識や背景知識・情報」を効率的に活用していない傾向があること、そしてそれは特に英語力の低い者にその傾向が強いことが報告されている(Horibe、'95)。その傾向を克服するためと、受身的な授業に慣れている日本人学生に多大な負荷をかけることなく、それでいて限られた時間を有効に、積極的に参加しやすくなるよう、前期同様、できる限り協働作業を取り入れた。

クラスも前期と同じメンバー構成であり、入学したばかりの前期に比べれば、互いの親近感は前よりは強まっているはずである。グループ編成、作業のやり方など、前期よりは教師のコントロールをゆるめていった。日本人学生達に見られる消極的な傾向に配慮しつつ、協働作業で、プロセスとしての読解スキルを身に付けるよう導き、学生の自由裁量を増やしたことのプラスの影響が現れていたと思われるので、その点を中心に報告したい。

II. シラバス

対象は前期の実践報告(牧、'04)と同じクラスである。文系と理系の学部の異なる共通教育1年の2クラスで、どちらもBレベルである。(前期実践報告では文系をクラスA、理系をクラスB

と表記したが、習熟レベル表記との混同を避けるため、本報告では文系、理系をそのまま使用する。) 初回のレッスン日に学生達に渡し、説明したシラバスは以下のとおりである。レッスン日が異なる以外、基本情報は同じである。

<p>(1) 授業のねらい：「J 英語 R」は、日本語を介さずに英語を英語のまま読み取れるようになることを目標とします。</p> <p>(2) 授業の概要：そのために、速読の教科書を使ったり、語彙学習習慣付けのためのテストをするだけでなく、皆さんからの追加情報を加え Group や個人での Speaking, Listening, Grammar, Writing 等様々な活動を、英語を使うことを基本に行います。また、TOEIC 問題の一部を体験することで、試験への慣れも培います。</p> <p>(3) 成績評価の方法：成績の評価は、それぞれの学習が十分に行なわれたかどうかを判定するために行うものです。試験（毎回の単語テスト）、課題（シャドウイング、内容要約、追加 Project の報告）、授業中の活動への参加度等が成績評価の判断材料となります。ただし、評価の前提は授業時間数の 2/3 以上の出席です。1/3 以上の欠席は放棄とみなします。</p>	<p>(5) 授業計画</p> <p>10/1 : Text、授業のやり方、詳細な計画の説明</p> <p>10/8～12/17 : 教科書より 11 章をカバー</p> <p>1/7 : Group 作業日</p> <p>1/14, 1/21 : Project の Oral Report</p> <p>* Shadowing は準備できしだい、予約を取って実施すること。</p> <p>* 内容要約は 1/28 までに提出すること。</p>
<p>(4) 履修上の注意： 授業外での学習は欠かさないください。毎日最低 20～30 分は英語に接する時間を作ることが基本です。また総合的な英語力向上に Shadowing は有益です。付属 CD を活用して、Shadowing を続けられることを期待します。</p>	
<p>辞書：(省略)</p>	<p>教科書：Rapid Reading with TOEIC Test Vocabulary (CD 付き) 成美堂</p>

共通教育 J 英語 R の授業に期待されている事柄には、「日本語を介さず、英語を英語のまま読み取る力を身につけさせる」ことがある。テープを聞かせながらテキストを黙読させる速読指導によって、読解速度と聴解力が向上したことが鈴木（'98）によって報告されている。また、シャドウイングに関する研究が豊富な門田（'04）（'04）は、リーディングの際もリスニング時に行っている音韻処理が起こることを主張し、（1）リスニングからリーディングへの技能のプラスの転移が存在すること、（2）視覚情報も聴覚情報も同じ内的言語に変換され、2つの技能間で共有されること、更に（3）第二言語学習においても、初期段階でリスニング指導に重点を置くことによって、その技能がリーディングに転移し、読解力が伸びることなどを報告している。

筆者は以上のような研究報告を支持し、リスニング活動はリーディング技能の向上に役立ち、聞くと同時に頭から順に英語のまま理解しなければ実施不可能なシャドウイングやテープによってスピードをコントロールされた速読は、英語を英語のまま読み取る力を身に付けさせる上で効果的であると考えている。

教科書は 15 章から成り、各章の構成は以下のようになっている。

- Key Words for TOEIC 本文に出てくる 10 の重要単語

- ・ Reading Passage 各章 3 分以内に読み終わられる 350 語程度の読みやすい名文
- ・ Comprehension Questions T/F 本文の理解度チェック
- ・ Listen and Repeat 教師用 CD を聞きながら空所を補充。空所は前述の Key Words for TOEIC の 10 単語を充てるようにできている。
- ・ Optional Exercises テーマに関連する単語の定着を目的とした Exercise (授業では省略)
- ・ Listening Exercises for TOEIC TOEIC Part 1 (写真描写) 問題への慣らしを意図した Exercise
- ・ Sentences with TOEIC Vocabulary 10 の重要単語のリハーサルを目的とし、新たな構文による総仕上げの Exercise (授業では省略)

教科書の本文は単なる Reading 用としてはやや平易で、短めであると思ったが、速読とシャドーイングにも活用することを意図して、また、前期に TOEIC への慣らしに対する要望も聞かれたことを考慮して、この教材を採用した。

授業実践には、前期の J 英語 L と同じく、以下の点に主眼を置いた。

1. ペア、グループによる協働作業活動を出来るだけ取り入れ、互いの協力を奨励する。
2. 授業は出来る限り英語で進めるが、概念理解を促進できる場合は日本語の説明を入れる。
3. 頭から意味を掴んでゆく練習をする。
4. モデル (CD) をまねて、音読をすることを奨励する。
5. シャドーイングを継続課題とする。
6. 最初から辞書を引かないで、文脈、文法構造から意味を推測する訓練をする。
7. 単語テストを毎回行う。
8. 音からの導入を欠かさない。

III. 実践内容

A. 授業展開

1. Warm Up (含む：前回の単語テストに現れた問題点の指摘) →
2. 単語テスト →
3. Listening Exercise for TOEIC (自宅学習) 部分のチェック →
4. テキスト本文 (グループ作業) + (Comprehension Questions T/F) →
5. Expansion Activity →
6. まとめ

以下にそれぞれの内容を述べる。

1. Warm Up : 挨拶のみならず、日本語あるいは英語により時事的な話題などで授業体制に入る。
2. 単語テスト : 各章の 1 ページ目には本文に使われている 10 の重要単語 (Key Words for TOEIC) が提示されている。これらを単語テストで確認することによって、その章の予習を促すことができると同時に、本文の内容予測を立てる助けにもなる。前期の単語テストでは「先週やったところ」を範囲として復習型で実施したところ、「範囲が分かりにくい」という学生達のコメントがあったので、復習型から予習型に変更した経緯もある。

実施方法は、教科書の Listen and Repeat (空所補充問題) 部分の 5 文を教師用 CD で聞かせ、その文中より教師が説明する定義に当たる英単語を書かせ、更にこれらの文中における日本語

の意味を付記させた。

例) CD 提示文 : The employees complained that management did not pay attention to their request.

Teacher : In this sentence, which word means “to express feelings of dislike, dissatisfaction, etc”?

空所に入れる 10 単語は Key Words for TOEIC の 10 単語を充てるようになっているので、学生達は事前に教科書を予習して予想を立てておくことは可能である (ただし、学生用 CD には録音されていない)。前期に比べて、対象単語ははっきりと的が絞られており、準備しやすくなったことは確かである。

3. Listening Exercise for TOEIC (自宅学習) のチェック : この箇所は TOEIC Part 1 (写真描写) 問題への慣らしを意図したものであるが、自宅での予習として、絵を見て、考えられうる限りの想像と予想を文にさせ、更になぜそう思うかも口頭説明をさせることで、より戦略的に扱った。

4. 本文の読解 + (Comprehension Questions T/F) : 「授業のねらい」で記述したように、日本語を介さずに英語を頭から頭から読み取れることを主眼に、以下のような活動を実施した。毎回必ず取り入れたことは、

- 1) Prediction : 写真を見て、どんな内容かを想像する。知っていることを話し合う。(この活動は、自分の中にあるスキーマを活性化させ、自分の予想が当たっているかどうかを確認しながら、読むのに役立つと考えられる。)
- 2) Paragraph Summarization : 各パラグラフの main idea を掴むために、常に最初の文と最後の文をまず読む Skimming の習慣をつけさせ、グループ単位で 1 つの英文にまとめさせる。
- 3) Shadowing : 時間に制約があり、授業では、クラス全体でのマンブリング練習、グループ、ペアー練習に留めた。

その他、毎回ではないが、実施したことの例としては、

4) Sentence Completion : テキストを開いた学生が担当パラグラフの中の重要な文を途中まで読み、相手の学生に完成させるペアーワークで、内容理解のチェックに用いた。

例) St. A : A friend does not criticize you, but makes an effort to …………….

St. B : A friend does not criticize you, but makes an effort to *help you*.

St. A : Thanks to your friend' s ………, you feel less sad and lonely.

St. B : Thanks to your friend' s *encouragement*, you feel less sad and lonely.

Comprehension Questions T/F はテキストの Exercise の 1 つである。内容理解の確認は上述のような、独自の作業活動を取り入れる事が多いため、この Exercise は答えあわせ程度に活用したが、False の場合はその理由説明を求めるよう心がけた。

5. Expansion Activity : このコースでは学期末にグループ発表を課題として与えている。この活動はそのための教師からの例示として、読むことが楽しいと思えることを主眼に、教師自身が汲み取ったテーマを発展させた読み物や活動を各章ごとに紹介した。以下にいくつかの例を挙げる。

Chapter2) An American Breakfast in Kyoto

題材) 和食、和食材の英語解説文 (インターネットソース)

- 例) 1. Sushi format, raw sliced fish scattered on top of the rice.
 2. A long, white radish, often grated or cut into fine strips. It helps dissolve stagnant fat deposits that have accumulated in the body. The freshly grated in raw is especially helpful in the digestion of oily foods.

作業) 何の料理、どの食物を指しているか考える。

Chapter 4) Friends are Important

題材) 著名人による友情に関する Quotes の穴埋め版 (インターネットソース)

- 例) 1. Between men and women there' s no friendship possible.
 There is passion, hatred, worship, love, but no _____.
 (Oscar Wilde, a writer)
 2. We know our friends by their defects rather than by their _____.
 (W. Somerset Maugham, a writer)

作業) それぞれの人物について確認し、論理的に穴埋めする。

Chapter 14) Follow Your Dream

題材) 映画 The Sound of Music より *Climb Every Mountain* の歌詞

- 例) A dream that will need all the love you can ()
 Everyday of your life for as long as you ()

作業) 韻を踏んでいることなど詩のパターンを解説し、映画の場面を見、聞いて、穴埋めをする。

6. まとめ:

教師の提示した Expansion Activity も参考にしながら、各章の題材からどんな点が心に残り、自分ならどのようにアプローチするか毎回考えさせるように心がけた。

このような展開で 12 週の授業を行い、13 週目をグループ発表のための作業日として与え、14 週目と 15 週目をグループプロジェクトの発表日に充てた。

B. コース課題

1. グループプロジェクト

グループプロジェクトとは「自分達で決めた 3~5 名のメンバーで、各課の読み物から心に残ったことや連想したことをヒントに、更に詳しく調べてみたいことについて、協力して資料を集めたり、あるいは簡単なアンケート調査を実施するなどして、その結果を表やポスターなどの視覚材料にまとめて口頭発表するものである」とした。提示する資料は必ず英語で作成するが、プレゼンテーションを目標とするコースではないため、発表は日本語でよいとした。

なお、発表は以下の項目についてグループ単位で相互に点数評価し、後日総合得点数を掲示した。

<評価項目>	<得点>					
1. 発表内容の興味深さ	1	2	3	4	5	6
2. 発表の仕方 (声、視線、時間配分など)	1	2	3	4	5	6

3. 掲示物のわかりやすさ (論点、まとめ、視覚的魅力など)	1	2	3	4	5	6
4. 調査内容の質の高さ (きちんと調べたかどうか)	1	2	3	4	5	6
5. チームとしてのまとめ (役割分担など)	1	2	3	4	5	6

2. シャドーイング発表

シャドーイングは、その効果に加えて、前期に学生達に強いインパクトを与え、継続したいとの希望が多かった活動である。テキストの 15 の本文の中から自分の興味に近い内容を選び、学期中に個別に研究室を訪れ、発表する形式を取った。Passage はどれも 350 語程度で、読みやすく短めの名文であるが、前期が 60～70 語の 1 文節程度の課題文と 4 行会話文であったことに比べると 5～6 倍の長さがあり、大半の学生には充分チャレンジを感じさせるものといえる。

3. 日本語要約文の提出

授業内では主な活動がグループ活動となるために、個々の実態は捉えられにくくなる。そのため、個々の読解度を確認するために、自分が選んだ章の本文の日本語要約文を学期末に提出してもらった。

IV. 学生からの感想から見えてくる、協働の効果

学生による学期末のコース評価では、大学が求めるものに加えて、前期同様、「教師の独自の取り組みとやり方」に対して「良かった点」と「改善点」を記述してくれるようお願いした。各質問項目とそれに対する回答数で集計したのが下の表 1 である。(自由記述の単純集計表は巻末の資料 1 を参照いただきたい。)

学生による授業評価・項目別回答数集計表

表 1)

		単語テスト	英・日使い分け	グループ作業	シャドーイング	Gr.プロジェクト	テキスト	総合コメント
文系	良い点	31	25	25	25	20	22	14
	改善点	19	9	23	16	16	7	2
	計	50	34	48	41	36	29	16
理系	良い点	24	16	13	19	16	16	14
	改善点	12	5	10	14	8	7	1
	計	36	21	23	33	24	23	15

クラスの構成メンバーは、文系クラスにおいて高学年未履修者 1 名が後期から加わったが、それ以外は全員前期と同じである。前期に比べれば、構成メンバー同士の心地よさは増しているはずと思われ、グループ編成においても学生の自由裁量を増やした。ここでは、特に協働活動を中心に、前期（牧、'04）と比較しながらまとめる。

1. クラス内グループ作業活動

良かった点、改善点共に、前期同様、文系クラスからの回答が多かった。文系ではこのクラスと同じ構成メンバーが他の講義と一緒に受講することはまれで、メンバー同士の粘着度は低い。またこのクラス以外でグループ作業をすることも少ない。このことがグループ作業そのもののインパクト

トを高めた要因と思われるが、前期に比べて「やりにくかった」「機能しなかった」という回答は減り、活動に積極的に参加し、楽しむ者が増えた。しかも「積極的に取り組んだ」「意見交換ができた」、あるいは「もっと英語を使うべきだった」「もっと活発にやれたらよかった」といった、自分の取り組み方や反省点といった、自己の視点からのコメントが多く現れた。これは前期には見られなかったことで、教師のコントロールを減らし、学生の自由裁量を増やしたことが学生の自主性を高め、授業への参加意識が強まっていたことの表れではないかと思われる。

一方専門の均一性が高い理系クラスからのグループ作業活動に対する回答は前期同様に少なく、「説明をもっと早くしてほしい」「もっと増やせば、発言がもっと活発になる」といった教師のやり方を客観的に分析したコメントが比較的多かった。

教師から観れば、文系クラスのほうがグループ編成にも手助けが必要なことが多く、共同作業が機能しにくい印象があったために、思いがけない結果であった。グループ活動の体験が少なかった分インパクトが強く、親密度の高まりとともに自由裁量を楽しみ、協働活動が機能するようになった可能性が高いと推察される。

2. グループプロジェクト

グループプロジェクトでは、クラス時間外でメンバー各々が時間の調節をし、作業分担等を決めて調査しなければならなかったため、どちらのクラスからも時間調節の難しさをコメントする者が多かったが、そのように回答した者の多くが、同時に「テーマを自由に決めること」「いろいろ調べることを」「一人でやるより大きなことができる」「仲間と密になれた」「やりがいがあった」とも回答しており、自主的な協働作業は協調性を培う上でも効果があったと考えられる。さらに、発表は日本語で可とした点について、改善点の中で、「英語を使うようにしたほうがよい」「英語でなくていいのか」と言った意見だけでなく、「英語でのプレゼンもやってみたい」といった学生自身の意欲の現れを示したコメントも現れた。ここでも積極的な傾向は文系のほうにより強く見られた。全般的にテーマの選択やグループメンバーの選択に手間取ったにもかかわらず、グループプロジェクトは文系クラスによりインパクトを与え、積極的に参加したものが多かったのではないかと推察される。

V. グループプロジェクトのテーマにみる学習者中心の効果

以下の表2は両クラスのそれぞれのグループがテーマに選択した章と発表タイトルをまとめたものである。

グループプロジェクト発表表

表2)

章	各章の題	主題	教師の発展活動	発表数	発表題（文系・理系）
1	Falling in Love	愛	Interracial Marriage, Love quotes	0	
2	An American Breakfast in Kyoto	朝食にみる文化 差	英語による和食、和食材 の解説文読解	1	日・中・米、食の比較（文）
				2	本物の海賊と物語の海賊 （文）
				3	アジアの正月料理（文）

				4	世界の朝食 (理)
				5	各国の朝食 (理)
3	You are the Sunshine of My Life	心の太陽、障害	Song: You' re the Sunshine of my Life	1	Stevie' s life (文)
				2	Stevie & Japan (文)
4	Friends are Important	友情	Friendship Quotes	1	「友達」に対する意識調査 (文)
6	The Tree of Life	命の木	The Giving Tree	1	木と人間の関わり (理)
7	Fashion Expresses Your Identity		“Fashionable” sports/ lifestyle/foods/ideas	1	江戸時代の着物 (文)
9	Candles in the Dark	平和、互助精神	Song: Candle in the Wind	1	Beatles (理)
10	Eating Healthy	食と健康	The 1 st Thanksgiving Story	1	ジャンクフード (文)
				2	大学生の食事の実態 (文)
				3	ラーメン (理)
				4	健康食品・お茶 (理)
11	Listen to the Little Voice	天職	Mother Teresa	0	
12	Everybody Needs a Hero	ヒーロー	Gandhi Quiz	1	ガンジーの人生と人間愛 (人)
				2	王貞治物語 (理)
14	Follow Your Dream	夢の実現	Song: Climb Every Mountain	0	
15	English: An Investment For Your Future	投資としての英語	Countries and Languages	1	和製英語 (理)

*5, 8, 13 章は時間の都合で割愛した。

学生達を選んだテーマからは、食とかポップミュージックとか、日常的な事柄が大学1年生としての共通した関心事であることが分かる一方、文系ではファッションを取り上げるグループがあり、理系では木を扱うグループがいるといった、関心分野の違いが表れていた。また同じ「食文化」を取り上げても、理系はラーメンをより健康的に食するクッキング方法を発表し、文系はファーストフードや外食が多い、身近な自分達の食生活の栄養の偏りを扱ってみたり、あるいはまた「バイキングスタイルの朝食」から「海賊のバイキング」へと発想を展開してみたりと、専攻分野、グループによって興味がいろいろな方面に発展していた。また、「愛、友情、平和、互助精神、ヒーロー」といった精神的なテーマが結び合わさり、世界を救えるのは「愛」という気持ちを Beatles に集約させたグループも現れた。このような多様性こそが豊かな文化の原動力であり、彼等が能動的に関われる学習者中心の成果であろうと思われる。

VI. 教師側の改善点

学生達からは、「全体的には構成も練られた、楽しい授業であった」とのコメントをいただいたが、教師側の反省点が多々あるのも事実で、以下のような点を改善点として挙げたい。

1. 前期からの継続のクラスであり、約1年間の協働作業活動を通して学生達の親密度は高まっているはずとの判断から、後期はグループ編成も学生の自由とした。前期に比べて活動に積極的に参加し、楽しむ者が増えたとは言え、「自由でも同じメンバーになる」とか「やりにくかった」「機能しなかった」「グループ作りに手間取った」という回答も残っており、グループ編成に手間取らない教師側の更なる工夫が必要である。最近の学生達にはグループを形成することを不得意とする者が多いことへの配慮が不足していたことも反省している。
2. グループ作業活動は想定以上に時間がかかり、最後の締め（まとめ）に十分時間を当てられなかったため、やらせっぱなしになったと反省する。時間配分は引き続き教師の課題である。
3. 単語テストは範囲も分かりやすく勉強がしやすかった反面、相対的にレベルの高い学生が多く存在していた理系のクラスでは刺激が少なかったとの指摘もあった。出所のはっきりしたものとそうでないものを組みあわせたり、パターン化しないやり方を取り入れるなど、レベルに合わせて臨機応変に対応していく必要があったと反省している。
4. 前期に引き続きプラスになったこととして、もっとも高く評価されているシャドーイング活動であるが、「きつい」とか「授業でも扱ってほしい」とのコメントからは、前期で「経験済み」との私の判断はまだ足りていなかったことを示している。また個別に対応する中で、音読習慣を持っていない学生も多く、テキストをすらすらと読むことが出来ないケースも多々あることがわかった。今後は、まず音読が出来るかどうかの確認から始め、それぞれのレベルに合わせた課題を与えられるよう、早い段階で個別指導する必要があることを認識した。

VII. まとめ

筆者は常日頃、グループ学習や実践学習のヒントは小学校教育の中にあるのではないかと考えている。小学校ではグループによる課題学習がよく行われており、教師はヒントになる例示を与えたら、あとは学習者がグループでそれぞれ役割分担をして自ら活動を始める。学習者が能動的に活動する中でこそ、学びが進められるはずである。しかし、受験が大きな目標になる頃から学生達は授業に対して受動的な関わり方になり、体験学習の喜びを忘れてしまうのではないだろうか。

教科書は読み物を通してテーマを紹介してくれる。教師はそのテーマから自分なりの展開を例示して見せる。それをモデルに学習者も心が向かう方向に自分達なりにテーマを発展させるというのが今回の課題であった。テーマをどのように深めたいと思うか、また何をどう連想して展開させるかは彼らの自由である。発表までの課程には、若干のリサーチが要求され、資料にも当たらねばならない。教科書を超えて、学習者自らが Reading 材料を選ぶことで、読むことを楽しめるよう配慮したつもりである。グループ活動、グループプロジェクトなどを通して自分達の発言の場が増えることへの積極的な意見が多かったことは、学習者を中心に据える教授法が学生たちに歓迎されていることの証に他ならない。進級後も彼等が更に自信をもって積極的に英語学習へ取り組んでいてくれることを願って止まない。

参考文献

- Horibe, H.: An Inquiry into Reading Comprehension Strategies through Think-aloud Protocols.
JALT Journal Vol. 17, No.2, Nov, 180-196, 1995
- 門田修平、玉井健共著：決定版英語シャドーイング。コスモピア, 2004
- 門田修平、野呂忠司編著：英語リーディングの認知メカニズム。くろしお出版, 2004
- 小池生夫監修：SLA。SLA 研究会編, 1994
- 鈴木寿一：音声教材中のポーズがリーディング・スピードに及ぼす影響に関する実証的研究。ことばの科学研究会（編）『ことばの心理と学習—河野守夫教授退職記念論文集』p.311-326。金星堂, 1998
- 牧 かずみ：協働で作る授業の実践—学びの共同体としてのクラス—。信州大学教育システム研究開発センター紀要 10, 3-11, 2004

協働で作る授業の実践(2)

<資料1> 学生による授業評価・項目別単純集計表
2004年1月(2003年度後期)アンケート
文系クラス)

単語テストのやり方 良かった点	単語テストのやり方 改善点	英語・日本語の使い分け 良かった点	英語・日本語の使い分け 改善点	グループ作業のやり方 良かった点	グループ作業のやり方 改善点
単語を覚えられた 範囲が決まっているのでしっかり予習できた 勉強しやすい やる気が出る 予習が出来てよい 予習習慣、リスニング形式、すれば取れる 聞き取りも兼ねていた 聞きながら出来てよい 決まった範囲 決まった範囲。文意の訳 後期のほうが楽だった こんなに凝ったの初めて 授業の最初が良い 前期より範囲分がしやすい 単語がテストできる 単語少なくて覚えやすい 使い方で確認できた 内容把握しやすい 範囲が明確で分かりやすい 範囲がわかり、勉強しやすい 範囲がわかりやすい。 範囲がわかる 範囲がわかる 口・英だけでないこと 毎週することがよい やりやすい、コメントでやる気 予習前提でやれること 予習で勉強しやすい 予習の助けになる 予想がつき点が取りやすい 予想がつくので勉強しやすい 理系クラス)	聞き取れないことがある 聞き取れないことがある やり方に慣れるのがきつかった。 3つ単語が出るのが難しい 長期的に覚えるのは難しい toEICにも対応しても どの意味を音のか分からないことも やややさしすぎ 文を2度書つてほしい。 Hearingは1回のほうが でも、1時的になりにかねない やり方は毎回一緒のほうが 何が出来るかわかっていること、toEIC練習 習帖のようなものも 始まる時間をきっかり一定にして もっとtoEIC向けの単語がほしかった 特になし 特になし	英語に積極的に触れられる 英語に慣れる機会が増えた 勘が働くようになる 聞き取れるとうれしい 聞き取るうとする努力 聞き取るうと必死になれる 聞く力になる 聴解力よくなった 慣れる 分かりやすい説明で、英語に慣れた 英語に集中できてよい 聞き取り練習がよい 聞きやすい英語だった ちよどよい ちよどよい ちよどよいバランス ちよどよいバランス 適度 無理な時は日本語で言ってく れる点 よい よい 分かりやすい 分かりやすく、適度 このままでよい このままでよい	分からない時があった たまにわからない たくさん使った方がよいと思 うが、聞き取りが無理 Grの人に聞いてしまう点 もう少し日本語の補足が欲しい かった 日本語が多い 日本語訳をつけてほしい 重要ことは日本語で言っ てほしい もっと会話を増やしても	すごく楽しかった 話し合い楽しく、積極的に出来た 頼れる おもしろい 仲間が増え、授業が楽しかった いろいろな意見交換できた。 自由決定でやりやすかった 自由でできたのでよかった。 わからないことを相談できる 自分達の考えを話せる 仲良くなった 楽しかった 楽しい。チームが楽しかった。 Gr.話し合える 1人じゃなくていい 自由に意見交換できる 発言機会が増える 近くの人とGr.で話すこと 1人より考えやすい 他の考えも聞ける 自由に決められる 前期よりGr.作業多く、理解向 上)*) 他の考えも聞ける 進め方はよい	自由でも、同じGr.になった 自己表現の練習が必要 もっと活発になったらよかった もっと討論をしたほうがよい 英語をなかなか使えない、Gr.作りづらい 英語をもっと使うべき 頻りすぎ 生徒がもっと積極的になるべき 時間配分と段取りに戸惑った Gr.作りに時間がかかること Gr.作りにくかった。 ほかの話になることも なじむのに時間がかかった。 毎回自由は無謀 Gr.作りに課題を残す Gr.でなくともいい作業もあった。 指示がよく分からないことも 活動が特定の個人に集中しやすい 席を変えたりしていろいろな人とGr.を 自由決定でもメンバー変わらない Gr.作りに時間がかかること 先生の経験をもっと聞きたかった 友達少なく、大変
以前より簡単 自分は好きです 先生が単語の説明をすること 全部よい 単語学習ができる 単語を使って文を作れば、使い方がわ かってよかった 語め込みの習慣がついた テープを流す点 出るところがわかりやすい 点を取りやすい 範囲がわかりやすかった 範囲がわかりやすかった 範囲明確 文章で行った点 勉強しやすかった 勉強すれば点が取れること 毎回やる事で英語にふさわしい 毎時間やる やる気が出る 予習がきちんとできる 予習できる 予習の習慣がついた 予習勉強できて授業がわかりやすい 予習も兼ねている	2度目のチャンスにらない 暗記すればよいものになってしまった 暗記できるのでも、範囲がわからないほうがよい 覚えやすいが忘れやすい 単語がわかっていたので簡単すぎた 単語を範囲だったのでも、もう少し考えるべきか 選考者にもっと厳しく 出る単語が決まっているため身につ いた気がしない 取り組みやすい形に 範囲が狭く、本当の実力にならない もっと単語数を増やしたほうが 問題の出し方	とても楽しんでたので、わかりやすい 今のままでよい 英語授業だから使うの問題ない 英語授業ばかりでよい 英語に多く触れられた 聞き取りアップ さりげない雑学が好きだった 授業中によく英語をつかうこと よい よい よくわからない時は日本語説 明があれば授業順調 理解しやすい リスニングになった わかりやすい わかりやすいSpeedで わかりやすかった	使い過ぎると聞き取れないことも St.が英語を使う時間が短かった それでもわからない人をどうするか どちらか一方にすべき、中途半端 内容をもっと興味深くすれば	1人でわからない事がわかった 確認ができて、頼もしい きついい経験 協力できる 自分たちで自由にできる 授業にメリハリができる 生徒の発言が高まる 積極的に参加できた 楽しかった 団体行動力アップ 担当がうまくできた まとまりやすい やりやすかった	結局いつも同じGr.になること 自由決定でもメンバーが変わらない 説明をもっと早くに タイミングが少々わかりづらかった どタバタすぎた まとまりがない 難しかった もっと増やせば、発言をもっと活発になる やりづらかったのでも、あまりやらないでほしい やる気のない人がいると全体としてまと まらない

